

地域発 世界へ



浄水器メーカーのワイズグローバルビジョン(沖縄県うるま市)は海水淡水化装置の海外販売に力を入れている。装置の小型化を進め、1年半前に1人で持ち運び可能な世界最小クラスの製品を開発。4カ国に総代理店をつくり、海外販売の拡大を狙う。

「海水を淡水にできれば水に困っている国で売れると単純に思った」。開発を担う大嶺光雄会長が海水淡

ワイズグローバルビジョン 持ち運べる淡水化装置



トラックに収
納して持ち運
べる海水淡水
化装置も開発
した

ワイズグローバルビジョン 2012年に沖縄県宜野湾市で創業。16年うるま市の国際物流拠点産業集積地域の賃貸工場に移転。海水淡水化装置や家庭用・防災用浄水器などを開発・製造する。17年8月期の売上高は約1億円、従業員はパートを含め17人。

低価格化、海外で拡販狙う

大半の部品は海外から安く購入し、自社で製造するのは基幹部品の逆浸透膜を入れる容器などだけ。サイズを従来品の半分にしたことで、全体も小型・軽

や環境、ボートに関する展示会へ出展する。今年1月にアプタビで開催された水関連の展示会ではトラック型を持ち込み、作った水を飲んでもらうデモを実施。関心を持った南アフリカの水道局との契約が進む。海外では上水道が未整備の地域がある発展途上国などから、行政による問い合わせが多い。これまでの販売実績はアジアやアフリカの9カ国。フイリピンやイ

2012年に最初の海水量になった。16年4月にはトラックに収納して持ち運べる製品も開発。重さは27kgまで軽くなった。国内では漁船に売り込むため沖縄や九州の漁協を営業回りが、海外では水

水化装置に取り組み始めたのは10年前。原点は少年時代にある。かつて水不足には「MYZ(ミズ)シリーズ」*として、サイズや駆動方式などが違う様々なタイプをそろえる。

2012年に最初の海水量になった。16年4月にはトラックに収納して持ち運べる製品も開発。重さは27kgまで軽くなった。国内では漁船に売り込むため沖縄や九州の漁協を営業回りが、海外では水

や環境、ボートに関する展示会へ出展する。今年1月にアプタビで開催された水関連の展示会ではトラック型を持ち込み、作った水を飲んでもらうデモを実施。関心を持った南アフリカの水道局との契約が進む。海外では上水道が未整備の地域がある発展途上国などから、行政による問い合わせが多い。これまでの販売実績はアジアやアフリカの9カ国。フイリピンやイ

現在、トラック型をさらに小型化した海水淡水化装置を開発中。重さ17kg、10時間の連続運転が可能になる。3000Wと消費電力を大幅に抑えた省エネ型でもある。来年1月のアプタビでの展示会までに完成させたいと意気込む。

(那覇支局長 唐沢清)